

## 令和3年度絵本の取り組み

ちやいれっく西葛西駅ビル保育園

### 絵本の読み聞かせの効果

絵本の取り組みを園で実践する際に、子ども達を育む保育とは何かを考えてみました。そこで、様々な考えの中から、絵本の読み聞かせの効果として脳科学の観点から着目して、1年の計画とし、ねらいを立てました。仮説では「思考・記憶・創造などを司る前頭前野という部分が活動しているのでは?」と考えられていましたが、近年の研究発表で、前頭前野では活動は見られず、“大脳辺縁系”が刺激されている事が分かりました。“大脳辺縁系”は喜怒哀楽など心の動きや情動を司ります。読み聞かせによって、子どもの顔を見つめながら歌ってあげたり、心を込めて語りかけたりすることが、子どもたちの心の安定につながっていると考え、安心な環境の中でコミュニケーションが深まり、絆をしっかりと育める事が解りました。土台をしっかりと形成する事で非認知能力が育つ、10の姿を自然と目指す事が出来る、また継続して実践できると考え、下記のようなねらいと取り組みを実施し、報告致します。

### ねらい

絵本を日常の生活で取り入れ、親しみを持ち、安心した基本的生活が送られるように心の土台である愛着を育む。また、心豊かに自己表現しながら生活できるように絵本を活用する。

### 取り組み内容

☆愛着の土台の基礎となる時代の1歳児さん。日常生活の中で保育者と一緒に絵本を楽しみ、積極的にコミュニケーションを取り、絆を深めています。そうした中で培った安心した環境の中で、自分で選んだ本を自分のペースで楽しんでいます。時には、「せんせい」と絵本を自ら持ってきてコミュニケーションを図ろうとしています。身近な物を題材とし、オノマトペや歌絵本などを中心にお友達とも一緒に楽しんでいます。発表会でも歌絵本の「おもちゃのチャチャチャ」を楽しみ、表現しました。(1歳児)

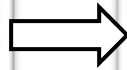


☆2歳児になると、友達との関わりが増え、基本的な生活習慣が確立する時代になります。同時にイヤイヤ期という大切な発達の時節にも差し掛かります。

身近な生活に関わる事を中心に、イヤイヤ期ならではの絵本も取り入れています。遊びの中でも絵本の真似をしてお人形をトイレに行かせてみたり、「ねんねしようね」と寝かしつけたりして、楽しんでいます。(2歳児)

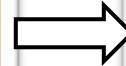


☆3歳児以上となると、基本的な生活はほぼ自立し、安心して自分の世界を広げる事で、自己表現を發揮しながら、自信を持って園生活を楽しむようになります。遊びの中でも、絵本や図鑑が登場し、子ども達の身近な存在となっています。



大好きなカブトムシを友達と一緒に図鑑で調べ、ブロックで再現して遊んでいます。(4歳児)

恐竜に興味を持ち、オリジナルの図鑑を製作しています。何日も何日もかけて、細かく調べながら書いています。出来上がると、今度は立体物に挑戦！自分の図鑑を見ながら恐竜になりきって楽しんでいます。(5歳児)



☆その他☆

食育



「げんきいっぱい  
朝ごはんの術」  
のびこ 絵 香川靖雄 監修

毎月1回  
「絵本メニュー」を楽しんでいます



「ぴちぱち さくさく」

若菜ひとし・きよこ 作  
美味しそうな音が沢山出てくる本。

食欲を誘います！

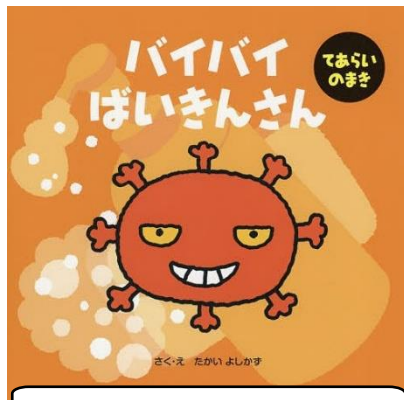


保健指導

コロナ禍もあり、手洗い指導に力を入れています。その中でも下記の絵本が大活躍！ビオレママ「きちんと てあらい!の術」では、絵本を読んでから、歌に合わせて歌うと子ども達のイメージも膨らみ、自ら歌いながら丁寧に洗う姿もみられ、習慣となりました。



「ぴかぴかおてて」  
わらべきみか 作・絵



「バイバイばいきんさん」  
てあらいのまき  
たかいよしかず 作・絵



「ビオレママ  
きちんと てあらい!の術」  
山本省三 作